

1. 挨拶

今年は3組の企画会議が立ち上がり、会員の事業が複数企画され実行に入っています。大変うれしいことである。2組は既に実行済みで、1組、3組がこれから10月、11月の計画である。面白い企画なので奮って参加お願いいたします。各組とも数人の有志の方々が企画を練って実行まで担当しています。ありがとうございます。

ここで私的なことだが困ったことが起こったので皆さんに参考までにお知らせします。ヨウシュヤマゴボウという雑草をご存じだろうか。中秋の名月は旧暦の9月のことで美しい草花ならば愛でたいところだが、この時期に存在感抜群のちよ



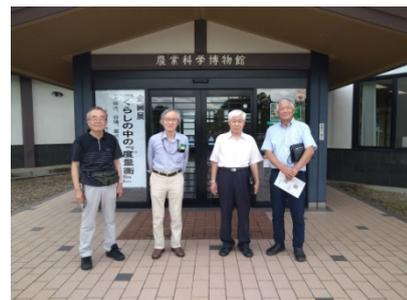
っと目にきれいな雑草にヨウシュヤマゴボウという毒草がある。道端と言わずいたるところに1~2mの丈で茎が赤くブドウ状の房に花一杯つけ今の時季には実が紫色になりおいしそうである。繁殖力が旺盛な駆除のやり難い雑草ということである。太さが2~3cmはあるので草というより木のあいこのような立派な姿である。紫の実の汁は染物に利用されていたそうであついたらなかなか落とせない代物である。なぜこんな話題を持ち出したかという、隣(普段は無人)からこの雑草が塀を超えて我が家に枝を出し見事な花と実をつけたことが始まりである。それが、今年は我が家の敷地で立派に成長したのである。それも2本。調べてこれが毒草であることが判明したので、あわててゴム手袋と繋ぎを着て触らないように注意し切り倒してゴミに出し安心と思っていた。秋になって気が付いたら、沢山芽が出ていて中には丈は小さいが花をつけているものもあり二日かかりで抜き取った訳である。根が残っていると何年も出てくるということなので暫くこの草と格闘しなければならぬ厄介な代物である。この風流とは言えない厄介なものに気が付いた方はくれぐれもご注意を。

2. 今年度の企画事業について

状況 各組の企画事業がいよいよ活動開始しました。

2組企画 施設訪問会 『岩手県農業研究センター』『農業科学博物館』(北上市)

- 日時 : 令和5年7月20日
午後1時30分~午後4時00分
- 訪問先 : 岩手県農業研究センター(本部)
〒024-0003 岩手県北上市成田20-1



代表電話：0197-68-2331 ファクス：0197-68-2361

- 3 内容 : ①センター概要紹介
説明者：高田真上席専門研究員（研究企画室）
- ②ミニセミナー
テーマ：スマート農業への取組みについて
「低コスト RTK-GNSS システムの農業分野への応用」
説明者：長嶺達也上席専門研究員（生産システム研究室）
※尾形茂生産システム研究室長同席
- ③施設・圃場等見学
案内者：尾形室長、長嶺上席専研、高田上席専研
- ④農業科学博物館見学
説明者：古川勉専門員（元大船渡農業改良普及センター所長）

4 参加者 : 4名（小野寺会員、深澤会員、柏葉会員、宮下<企画担当>）

5 感想（宮下）

参加者が少なめで、心配でしたが、質疑が活発に行われ、時間不足を痛感しました。参加された皆さんからは、「初めての訪問でたくさんを知れてよかった」、「また来てみたい」、「他の会員も来れば良かったのになあ」などの言葉を頂きました。また、対応頂いた農業研究センターのスタッフからも「手ごたえのある訪問を頂きました。勉強になりました」とのことで、少人数でも実行して良かったと思いました。

3 組企画 盛岡城跡公園散策

- 1 日 時 : 10月5日（木）1時30分～3時30分頃 小雨決行
- 2 集合場所 : もりおか歴史文化館 正面玄関前
- 3 案内役講師 : 戸澤 武美 氏 旧盛岡藩士桑田 理事

1 組企画 わしの尾酒造見学会」

- 1 日 時 : 11月15日（木）13:30～15:30
13:00頃 現地集合
- 2 集合場所 : 株式会社わしの尾酒造
八幡平市大更 22 地割 158 番地
Tel 0195-76-3211
いわて県北バス停前
- 3 参加料 : 無料 試飲参加の場合 500 円参加料がかかります
- 4 参加締め切り : 11月9日（木）

3. 会員の移動

退会会員 國分 正人 さんが退会されました

入会会員 なし

4. コラム 『いわての鬼（おに）』

みなさんは「鬼（おに）」というとなんを思うでしょうか？特に岩手に住んでいると、まず浮かぶのは「鬼の手形」で岩手の名前の由来となった「羅刹（らせつ）」を思い浮かべるのでは？中には「鬼婆（おにばば）」、「鬼嫁（おによめ）」、「鬼女（きじょ）」等を思う人もいると思う？女性に鬼がつく表現が多いように思うのは筆者の気のせいであろうか？また、鬼死骸村でも紹介した大武丸や、達窟谷の悪路王を思う方もいると思う。でも、岩手でも一般的に有名なのはなんといっても北上の「鬼剣舞」であろう。



【鬼の絵（鬼の館展示）】岩手の代表的な民俗芸能で、その鬼にちなんだ芸能祭や、鬼の実家とも思われる「北上市立鬼の館」なる市営の博物館などがある。今回はその「鬼の館」なる場所を訪ねてみた。そもそも「鬼（おに）」は何者なのか？また、いつこの世にあらわれたのであろうか？まず鬼（おに）とは「人ニモアラズ、浅マシキ者ドモ也ケリ」と定義されているようだ。またこの起源はインドの仏教成立以前のベーダ神話に、ア

シュラ（阿修羅）、ヤクシャ（夜叉）、ラクシャス（羅刹）などの悪神が登場する。やがてバラモン教やヒンドゥ教へさらには仏教に発展していく。この悪神達もそれぞれに受け継がれて仏教の鬼となっていくのである。さらに仏教が中国に渡り、地獄の鬼のイメージづくりに一役かっつたと言われる。中国では祀られざる死者の霊を鬼（き）といい、この世にさまよって様々な



【北上市 鬼の館】

災いの原因となり、角をもつ想像上の怪物として定着していったようだ。日本では古事記などの神話に、イザナギ・イザナミの話に出てくる、死んでしまったイザナミを訪ねて黄泉の国に行ったイザナギは、イザナミのおぞましい姿をみて逃げ帰った。これに対してイザナミは雷神や黄泉軍を使ってイザナギを追った。黄泉の国の境目迄逃げてきたイザナギはそこに成っていた桃の実を三個投げて窮地に一生を得たという話である。このことは桃ノ木の弓や杖で鬼を追い払う宮廷の行事の起源を物語っていると同時に、桃太郎の鬼退治の話に通じるものがある。日本で鬼の存在が定着したのは、平安時代の羅生門の鬼であり、大江山の鬼（酒吞童子）の物語で一般的になったとされる。そのころの鬼は本当に禍々しく恐ろしいものだったのだろう。しかし、現代のわれわれは、鬼をもっと身近に感じていると思われる。例えば日常的に鬼のつく慣用句が使われている。例えば「仕事の鬼」、「鬼に金棒」、「鬼の居ぬ間の洗濯」、「鬼の目に涙」、「鬼が笑う」、「鬼の首を取る」等があり、良い意味でも、悪い意味でもよく用いられる言葉である。これだけ「鬼（オニ）」が我々の日常に入り込んでいる事は、大いなる不思議である。さて、岩手の鬼（オニ）で代表的な

ものは何かと言えば、岩手の県名の由来とされる「羅刹（らせつ）」であろう、また一関の鬼死骸村の名前の由来となった「大武丸（おおたけまる）」、また、蝦夷の棟梁であった「阿豆流為（あてるい）」などであろう。これらの共通点は、当時の政府軍であった征夷大將軍坂上田村麻呂に反抗した勢力であった点である。当時の北東北は当時の為政者にとっては、中央の政治勢力を広げるために邪魔な存在でしかなかった。そこで鬼に仕立てて成敗した事になったようだ、すなわち云わ



【鬼の館に展示の鬼剣舞】

れない侵略者の犠牲者であった。もう一つ、大船渡市の越喜来（おきらい）という地名の由来だが、鬼が喜んで来たという意味で、鬼の隠れ場所であった。しかし田村麻呂は海から上陸し、数にものを言わせて打ち取ってしまった。これにちなんだ地名（鬼沢、首崎、脚崎、牙ヶ崎）が残っている。この鬼たちはいわゆる地方の豪族で、京の中央政権にとっての鬼だったのであろう。東北の「蝦夷」や「土蜘蛛族（つちぐもぞく）」等がこれに当たると考える。次に「鬼剣舞（おにけんばい）」を紹介しよう。今回訪問した北上の「鬼の館」での玄関で大手を振るって迎えてくれた。鬼剣舞は岩手の代表的な民俗芸能の一つで、和賀・北上地方の農民たちが守り伝えてきた勇壮で激しい踊りである。正式には、盆の精霊供養のために踊られる風流念仏踊りの一種「念仏剣舞」で一般的には「鬼剣舞」と呼ばれる。この鬼は仏教によって救われたため、鬼面には角がついていないのが特徴である。念仏によって人々を救うこと、反閤（へんばい；陰陽道の呪術で足踏みの事）によって大地の悪霊を退散させることを目指している。この鬼剣舞は北上市で催される北上みちのく芸の祭りで、その雄姿を見ることが出来る。今年も8月4日～6日までの3日間北上駅前大通りを中心に開催された。この鬼剣舞の面には威嚇的であり、鬼面と呼ばれている。この面は四色で、八人で踊るときには一人が白面、他は青面・赤面・黒面をつける。この四色は陰陽五行説の四季や方位を表すとともに、仏経の五大明王を象徴して、白面（秋・西・大威徳夜叉明王）、青面（春・東・降三世夜叉明王）、赤面（夏・南・軍荼利夜叉明王）、黒面（冬・北・金剛夜叉明王）となっている。ところで鬼剣舞（おにけんばい）の「バイ」は「マイ舞」がなまったものではなく、「へんばい（反閤）」からきている。反閤は、陰陽師や修験者の用いる呪法で、悪魔を踏み鎮め、邪気を払うために行うとされている。鬼の反閤と悪魔祓い、剣舞の最も重要な要素である。すなわち反閤の呪術的性格と念仏によって衆生を救う浄土信仰的性格とは結合したものが剣舞であると言えよう。その浄土信仰的性格のより濃く出ているのが大念仏剣舞であり、反閤の呪術的性格がより強く出ているのが念仏剣舞、特に鬼剣舞であるという説もある。最後に、三陸沿岸地方に伝わる伝統的な「鬼」を紹介しよう。小正月の夜に出没する「ネモミ」や「ナゴミ」や「スネカ」である。これらは、小正月の夜、仮装した姿で家々を廻り、祝福の言葉を述べる行事である。これらは福を呼ぶ鬼である。久慈市から大船渡市までの沿岸地方で代々受け継がれているが、現在

は岩泉町、田老町、大槌町、大船渡市吉浜でのみ行われている。この中で吉浜のスネカは秋田のナマハゲと共にユネスコ無形文化遺産に指定されたことでもよく知られている。以上いろいろと述べてきたが、中国の鬼（き）、仏教の鬼（おに）、夜叉、モノノケ等は、人を害し災いをもたらす恐ろしく禍々しい怪物であった。しかし、日本の特に岩手の民話や伝承、民間信仰・年中行事などに登場する鬼は、親しみやすく、愛すべき存在であった。寂しいお爺さんを慰める「節分の鬼」、悪霊を退散させてくれる「鬼剣舞の鬼」、小正月に福をもたらしてくれるナモミヤスネカ等の「春来る鬼」があった。さらには大武丸や悪路王などのように、中央の為政者によって蝦夷と呼ばれ、ついには鬼にされた者たちもいた。「鬼」を禍々しい怪物のイメージだけではとらえてはいけないことを思い知らされた。特に蝦夷として当時の中央政府からの命を受けた征服者達（坂上田村麻呂等）に迫害され、鬼にされた北東北の豪族たちの復権を願うものである。



【吉浜のスネカ】

5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈だよりです。

本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

6. 編集後記 「材木町よ市誕生祭」

岩手日報 9月10日版より

藩政時代、盛岡城下のいたるところにあった市。その多くは時代の中に埋もれていったが、今でも盛岡には素朴な人情市場がある。宮沢賢治のモニュメントが並ぶイーハトーブアベニューは、全長 400 メートル。その路上いっぱい店が並び、買物客が道を埋め尽くす。新鮮な野菜果物、漬物の販売のほか、地酒なども楽しめるようだ。「材木町よ市」の「よ」の一文字には、多種にわたる（萬）、余るほど豊富な（余）、良い商品を（良）、お客様に提供し（与）、満足していただく（喜）、というようにたくさんの意味と、商店街メンバーの思いの強さが込められているとの事。今年よ市は 11 月 25 日（土）までの毎週土曜日の午後 3 時 10 分～6 時 30 分まで開催されるようだ。（志田）